

こうやって、

読まれる

文章にする



いしかわゆき

「書きたい」という気持ちはどこから生まれるんだろう。

今日という日を忘れたくない。

気持ちを書き留めておきたい。

自分についてもっと知りたい。

はじめは、誰にも見られないノートや手帳に書いているだけでいいんだと思う。誰でもなく、まずは自分のために。思ったことや感じたことを、心のままに言葉にしてみる。「書く」はなんでもない日常を彩り、人生を豊かにしてくれる、誰にでも使える魔法だから。

でも、いつしかそれだけじゃ満足できなくなってくる。

何度も何度も読み返しては、言葉を書き足して削った文章。友だちの声が聞こえてくるような、思わずくすりと笑えてくる文章。生み出すのが苦しくて、泣きながら綴った文章。自分が日々一生懸命に生きるなかで自然と選びとった、大事な言葉たち。

ふと、「誰かに読んでほしいなあ」と思う。

「自分だけなのかもしれない」と感じた違和感に「そんなことないよ」って言ってほしい。嘘みたいなハプニングに

笑ってほしい。悲しいことがあったら一緒に泣いてほしい。

そう思うのはたぶん、おこがましいことじゃない。わたしたちは「誰かに伝えたい」と思うから言葉を使う。何かを受け取りたいから言葉を読む。だから、書いて、読んで、書いて、読んで、書きつづけるのだ。

わたしは、「書く」からには読みたい。

はじめに

こんにちは、ライターのいしかわゆきです。読者の方からは、親しみを込めて「ゆぴさん」と呼ばれています。好きに呼んでください。普段は取材をして記事を書いたり、テーマをもらってエッセイやコラムを書いたり、「○○やってみた!」と身体を張って体験レポートを書いたり、「書く」ことを仕事にしています。編集者としても、記事の企画を立てたり、他の人が書いた記事を編集して整えたり、添削をしたりすることもあります。

「誰やねん」という人のために、少しでも自分語りしますね!

わたしがライターになったのは社会人4年目のこと。ただ、その前から「書く」こと自体は趣味としてずっと続けてきました。小学生時代の拙い日記から始まり、思春期全開の中学生から大学生にかけて1600本ものブログを書いては、

全世界に向けて公開していました。恐ろしいことに、まだネットの海のどこかに漂っています。

小さいころから人見知りで、人と話すのがあまり得意ではなかったので、「本当はこう思ってるんだけどなあ」を伝えたくて、自ずと文章を書くようになりました。

ライターになつてからは、自由にコンテンツを投稿できるプラットフォーム『note』を始め、8年間で1000本以上の記事を書きました。コロナ禍で暇すぎて、「書くことが好きになる方法」をテーマに何本か記事を書いていたところ、『**書く習慣く自分と人生が変わるいちばん大切な文章力**』（クロスメディア・パブリッシング）という本を出版することになりました。

「書きたいけど書けない」

「書くことが続かない」

そんな人に向けて綴ったこの本は、「読んでいる途中から書きたくてたまらなくなる！」と話題になり、ありがたいことにベストセラーとなりました。この本のなかでは、何度も「**自分のために書く**」という言葉が出てきます。

「書く」って、好きじゃないと続かないと思うんです。「書く」が「書かなきゃ」になった瞬間、急に苦しくなってくる。書くことが嫌いになりそうになる。だからこそ、まずは「読まれるかどうか」はさておき、肩肘を張らずに自分のためにのびのびと書いてほしい。そんなことを書きました。

わたしが「書くこと」で一番大切だと思っているのは、「ハードルを下げてとりあえず書いてみることに」「素直に自分の言葉で本音を晒してみること」「楽しいと思えること」です。

はじめに「読まれる」ための手法を学んでしまうと、型にはまってしまい、楽しみを見出せずに心が折れてしまうと思うんです。たとえるなら、最初に「赤と黄色を混ぜるとオレンジになるんだよ」と教わってから絵を描くと、上達するのは早いかも知れないけど、「楽しい」という気持ちが育たないと思っっているんですよ。それよりは、「赤と黄色を混ぜてみたらオレンジになつてびっくりした!」と、とりあえずやつてみるほうが楽しいんじゃないかと思うんです。

「読まれる」ための手法から入ってしまうと、「本当は自分が書きたい内容じゃないけど、このテーマが読まれやすいからこれで書かなきゃ」「不本意だけど端的に伝えるために削らなきゃ」と、「書きたいこと」そちのけでぐちゃぐちゃと考えてしまいがち。そして、「ああ、書くつて面倒くさい!」と匙……もとい筆を投げてしまいます。

だからこそ、わたしは「好きなように書いた」うえで、「読まれる」手法を足していけばいいじゃない、と思っっています。楽しんで書けば、気持ちちがのる。そこに読ま

れる仕掛けがあれば読まれる。とにかくにも、まずは好きに書いてみるころからはじめて、一歩踏み込みたくなったら次のステップに行くのがオススメなのです。

「書くつて楽しい！」とまだ思えていない人は、ぜひ拙著『書く習慣』をお手に取っていただければと思います。

さて、今読んでいるこちらの本に出会ったあなたは、おそらくすでに書いてはいるけれど、「もつと読みたい！」という気持ちがあふつふつと湧いてきているのではないでしょうか。

せつかく一生懸命書いた文章だもの。誰かの目に留まってほしい。「いいね」してほしい。あわよくば「おもしろかった」とか言われたい。褒められたいしチャホヤされたい。新しい仕事につながってほしい。

それは、自分の文章に自信がついてきた証拠でもあります。だって、読まれなくてがっかりしてるってことは、「読まれる」と心のどこかで信じてるってことだから。

この本には、わたしがライターとして、いち個人として、毎日文章を書くなかで、「こうすれば読んでもらえるのでは？」と試行錯誤して編み出してきたものを詰め込みました。小説や脚本、詩など、文章にもいろいろありますが、ここでいう文章とは「個人的な文章」のことです。自分について書いたこと。読んだ本や観た映画の感想。日常での気づき。買ってよかったもの。最近ハマっていること。そんな文章です。

正直に言ってしまうえば、わたしは文章の書き方を体系的に学んだわけでも、その道の専門家でもないのです、これが正解かはわかりません。究極的には、文章に正解などないと思っています。

でも、「**こうすれば読んでもらえるのでは？**」はなんとなくわかるのです。これは、人生の半分以上を「個人的な文章」を書くことに費やしてきたわたしの「答え」です。一見根拠がないようにも見えろけれど、実体験をもとにした、たしかなものだと信じています。

とはいえ、先ほどから何度も言っているとおり、自分の書きたいことを無視して「読まれる」先行で書く文章は、書いていても楽しくないと思っています。まず、第一に自分の書きたいことがあつて、そのうえで読んでもらえるのが理想の形。目指すは「**好きに書いても読まれる**」文章の実現です。

準備はいいですか？ではいきましょう、「書く」のその先へ！

はじめに……………6

第1章…「読まれる文章」の絶対条件



そもそもいま、文章は読まれません……………24

・ライバルは動画や恋リア？

・個人的な文章の発信は増えている

じゃあ、どんな文章なら読まれるの？……………29

“あなた”は誰ですか？……………31

・「何を書くか」よりも「誰が書くか」

・ハッシュタグを書き出してみよう

・「他人しか知らない自分」を知ろう

普通の人でも「なんかすごそう」に見せる魔法……………38

・選ばれるために必要な、「なんかすごそう」

・「量」と「質」を足す

・ポジティブでもネガティブでもOK

・恥はかき捨てよ！

「自分を形作るもの」が読者を決める……………45

・「たったひとり」に向けた文章は読まれる

・読者に話しかけるように書く

・読者は自分で決められる

・「自分と似ている人」が、あなたの読者

「自分が欲しかった言葉」がプレゼントになる……………53

「自分が経験したこと」が「自分にしか書けないこと」……………58

・気づきの深さに価値がある

・「なんでそう思ったのか？」の過程を見せる

「ネガティブ」こそ最強の武器になる……………62

・身を削って書くから、誰かを救える

・ネガティブな体験はストーリーを生み出す

・悲しい体験への共感

・どん底からの発信が、誰かの希望に

その文章、ほんとうに本音ですか？……………69

・ど素人にも書けることがある

・さらけ出す勇氣

自分が「おもしろい」と思うことを信じてみよう……………72

第2章…「読まれる」テーマの見つけ方



「もし、自分が本を書くとしたら？」……………	78
・「自分が書けそうな1冊」を考えてみる	
・本の「目次」をつくってみよう	
人からよく聞かれることはみんなが「知りたい」こと……………	85
「備忘録」として残しておきたいことを書く……………	88
「熱量」のあるテーマは気持ちのりやすい……………	91
・早口で語ってしまうほど好きなこと	
・チタク語りは、気持ち悪いくらいがいい	
「普遍的な悩み」に「経験」を掛け合わせる……………	96
・誰もが興味のあるテーマがある	
・「経験」こそがエビデンスになる	
ニュースから考える読まれる「価値」のある7つのテーマ……………	101
「流行り」は熱いうちに出せ！……………	103
友人との雑談が「社会性」と繋がる……………	106
独自の視点を入れて「話題」に乗っかる……………	109
・「影響性」のある記事はどんな切り口でも読まれる	
・「独自の視点」を入れて、自分の色を出そう	

・「自分が思うこと」を入れるだけ	
自由研究としての「やってみた」に挑戦	117

・新しい「発見」を発表してみよう	
・サラッと書かず、「頑張った感」を出す	
自分の違和感を放置しない	122
過去からいまに「ストーリー」がある	125

第3章…読まれるための「掴み」の話



文章の9割はタイトルで決まる	132
「自分」の名前を出さずに「自分」を伝える	134
テーマに合わせて「自分の見せ方」を変える	139
数字を出してイメージしてもらう	143
ハードルを地面ストレスまで下げる	148
・行為のハードルを下げる	
・書き手のハードルを下げる	
結果を「チラ見せ」してみる	151
・「感想」をタイトルに入れる	

・結果を見せると、過程が気になる

「よく言われていること」とのギャップを見せる……………156

最初の3行で心をつかむ3つの「!」……………160

出会う読者はみんな「はじめまして」……………165

第4章…さらに「読まれる」文章を書くために



言い訳しながら書いてみる……………172

ひとつだけ、「言いたいこと」を決める……………176

・一言を際立たせるために「エピソード」を使う

・「言いたいこと」「感じたこと」をまず決める

「嬉しい」と言わずに「嬉しい」を伝える……………180

・小学生の感想文にならないために

・自分の五感に注目してみる

「知らなかったとき」にタイムリープする……………184

・初心者が知りたい情報を書くために

・読者を置いてけぼりにしない

読者が「わかる言葉」に翻訳する……………188

・「わかりやすい文章」が、一番むずかしい	
・言葉の翻訳の仕方	
ストレスなく読まれるための、「ビジュ」の話	197
・公開前にスマホで確認しよう	
・さらに読みやすくするために	
文章の鮮度を落とさず書く	201
・思いついたら、すぐに出す	
・人は1日で67%の情報を忘れる	
毎日書けば書くほど読まれるようになる	205
・読者の「読む習慣」をつくる	
・1ヶ月毎日更新チャレンジをやってみる	
・毎日投稿で、自分の文章を磨く	
タイトルはいくらでも変えていい	210
セルフツッコミを入れながら何度も読み返す	212
・「読まれるコツ」チェックポイント	
・質疑応答タイムを想像する	
いい「書き手」になるために、いい「読み手」になる	216
・日頃からいい文章に触れてみる	
・厳しい目線で編集するために	

第5章…自分をブランド化するための書き方



「書くこと」で得られるお金よりも価値のあるもの……………224

・見つけてもらうための「ブランディング」

・勝手に信頼が貯まってい

・発信内容をブラさない

「ありたい自分」で言葉を選ぶ……………230

・「読まれたい」ために、言葉を過激にしすぎない

・自分がどう見られたいか

・「使いたい言葉」と「使わない言葉」を決める

「情報」で釣って「人」に落とす……………236

・「ノウハウ」にするか「エッセイ」にするか

・「書き手」に注目してもらうために

自分が普段喋っている「言葉」で書く……………242

・「文章」となると、かしこまってしまふ人へ

・仲良くなれる言葉遣いがある

・方言も立派な武器。文法は気にしない！

具体的に書いて「自分らしさ」を出す……………248

・脱・普通の言葉

・「おいしいごはん」より「深夜の激辛ラーメン」

「言いたいこと」を正直に言う……………253

・自分が本当に書きたいことは何？

・何か言っているようで、何も言っていない文章

・自分に何度も問いかける

傷つきながら、書いてみる……………259

・心の一部をリアルに曝け出す

・傷ついたぶん、心に響くものになる

「読みたい」気持ちを出しすぎない……………263

・下心を出しすぎない

・上級者は「外し」にも挑戦してみて

自分の人生を、しっかり生きる……………268

おわりに……………274

〔巻末付録〕自己分析&思考整理ワーク

デザイン…藤田康平
イラスト…小幡彩貴
OTP…八文字則子